

資料 1 - 3

令和3年度 関係者ヒアリング調査結果

第6回 七飯町地域公共交通活性化協議会 資料
令和4年 3月17日

■調査目的

七飯町における効率的で利便性の高い公共交通網を構築するにあたり、庁内関係部局及び各種関係団体の地域公共交通への考え方や町内の交通資源の状況を把握し、今後、検討を進める公共交通網への連携可能性についての検討に向けた基礎資料の収集を行うため、ヒアリング調査を実施

■関係者ヒアリングの対象・項目

分類	対象	ヒアリング項目
庁内関係部局	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行状況について（運行台数、運転手数、利用対象、運行エリアなど） ・年間の運行経費について ・通学時間帯以外の運転手や車両の状況について ・町内中学校からの進学先及び高校生の通学時の移動手段について
	福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉有償運送や路線バス、タクシー以外で運行している交通手段について ・福祉有償運送事業者の事業者数、各事業者の運転手などの運営状況について ・福祉有償運送の運行状況について（対象者、運行エリア、利用の多い時間帯など）
	情報防災課	<ul style="list-style-type: none"> ・町有バスの運転手や車両も含めた運営状況 ・町有バスの運行状況（利用者、利用状況、利用頻度など） ・町有バスの他事業への活用可能性について
交通事業者	ハイヤー事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手や車両も含めた運営状況、ハイヤーの利用状況 ・運行事業への連携・協力可能性などについて
	乗合バス事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手や車両も含めた運営状況、沼っ子お出かけ号の利用状況 ・運行事業への連携・協力可能性などについて
	路線バス事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手や車両も含めた運営状況、七飯町に係る路線バスの利用状況 ・運行事業への連携・協力可能性などについて

■学校教育課（庁内関係部局）

◎スクールバスの運行状況について

- ・スクールバスの利用対象者は、大沼岳陽学校児童生徒（1年生～9年生）の全員であり、「大沼交通」と「からまつハイヤー」に運行を委託を行っている。
- ・大沼交通は、中型バス2台、小型バス1台の計3台で運行しており、うち中型1台はコロナ対応による臨時増便となっている。
- ・からまつハイヤーは、町所有の小型バス1台と同社のワゴン車1台、タクシー1台の計3台で運行している。
- ・また、大中山小学校に通学する一部生徒（10名未満）についても、豊田地区からの送迎を「ほくとハイヤー」に委託している。

◎年間の運行経費について

- ・学校教育課で委託している通学送迎については、令和2年度の実績で、約4,100万円となっている。

◎通学時間帯以外の運転手や車両の状況について

- ・基本的には登下校の利用だが、平日の空いている時間帯に学校行事等で利用される場合があり、夏休みや冬休み等の長期休暇期間は部活動の試合や大会等の行事便として運行する場合がある。

◎町内中学校からの進学先及び高校生の通学時の移動手段について

- ・町内中学校からは、函館市方面への進学が多いと認識している。
- ・高校生の通学の実態として、自宅と学校との距離が近い生徒は、徒歩や自転車による移動、自宅と学校との距離が遠い生徒は、JRやバス、自家用車による送迎が多い。

■福祉課（庁内関係部局）

◎福祉有償運送や路線バス、タクシー以外で運行している交通手段について

- ・福祉有償運送や路線バス、タクシーなどの主要公共交通手段のほかに、「大沼交通が独自に運行している沼っ子お出かけ号」や「社会福祉協議会が月1回、藤城地区・鳴川高台団地の2地域で行っている、買い物ボランティア」等があり、いずれもボランティアポイント事業のボランティアポイントを活用し、移動支援を実施している。
- ・買い物ボランティアに関しては、1～2名の個人ボランティアにより運行されており、車両は社会福祉協議会の10人乗りハイエースを活用している。
- ・その他、社会福祉協議会では、要援護者支え合い事業の中で、町内会による外出支援として、高齢者を月2回、温泉へ送迎する活動も行っている。（1町内会）
- ・また、町内の医療機関が独自で実施している通院送迎があり、宮村内科、松倉整形、なるかわ病院、向井クリニック、西谷整形、三木内科泌尿器科などで実施されており、一部医療機関においては、交通事業者へ委託した上で、実施している。

◎福祉有償運送事業者の事業者数、各事業者の運転手などの運営状況について

- ・福祉有償運送については、「社会福祉協議会」と「NPO法人 ちえのわ」の2事業者が運行している。
- ・運転手の状況については、社会福祉協議会で1名、ちえのわで9名の確保状況である。
- ・社会福祉協議会として運転手不足はないと認識しているが、利用時間帯が重複した場合には、利用者の状況を踏まえ、お断りすることがある。
- ・ちえのわからは、運行に係る配車業務に苦労していると聞いている。

■福祉課（庁内関係部局）

◎福祉有償運送の運行状況について（社会福祉協議会）

- ・社会福祉協議会における利用対象者は、心身の障害及び疾病等により、歩行困難な在宅の高齢者や障害等のある方を対象に行っており、登録者が16名、1ヶ月あたり延べ20～30回の運行状況である。
- ・運行の区域は、七飯町内、函館市及び北斗市となっており、主に七飯町内、函館市への移動要望が多く、午前診療を目的とした利用がほとんどである。
- ・利用料金については、条例で決まっており、自宅から七飯町内の往復で100円、函館市との往復で300円となっている。

◎福祉有償運送の運行状況について（NPO法人 ちえのわ）

- ・ちえのわでは運転手の自家用車での運行となるため、対象となる利用者の方は、ご自身で自家用車に乗降できる方となっており、登録者が16名、1ヶ月あたり延べ約200回の運行状況である。
- ・運行の区域は、社会福祉協議会と同一であり、同様に七飯町内、函館市への移動要望が多いほか、森町への要望も一部から挙がっている。
- ・利用料金については、運行距離に応じた費用がかかる料金形態となっている。

■情報防災課（庁内関係部局）

◎町有バスの運転手や車両も含めた運営状況

- ・町有バスは40人乗りの車両が2台、運転手2名で運行している。
- ・運転手については、専属で町有バスの運転、保守点検などを実施している。
- ・現状、運転手不足はないと認識しており、2名体制で充足している。

◎町有バスの運行状況

- ・町有バスの運行状況は、役場のイベント時の送迎や学校行事、町内会・高齢者団体などの移動に活用されている。
- ・運行可能時間帯は9時～16時となっているが、極端に早い時間や遅い時間でない限りは、柔軟に対応している。
- ・令和元年度の実績で1台あたり年間110件の利用状況であり、石狩管内地域など遠方への移動にも利用されている。
- ・年間を通じて、特に夏場の利用が多い状況となっている。

◎町有バスの他事業への活用可能性について

- ・担当課として、車両及び運転手の活用は可能と認識している。
- ・運行曜日や日程などをある程度限定した上で予約を行い、生活交通の拡充など他事業への活用は可能と考えられる。
- ・一方で、町内会や老人クラブなど、町民要望による運行も多いため、他事業への活用においては、関係者間の調整だけでなく、町民との合意形成を行いながら、慎重に判断していく必要がある。

■ほくとハイヤー（ハイヤー事業者）

◎運転手や車両も含めた運営状況

- ・普通車が8台（うち2台はジャンタクシー）、ジャンボタクシーが1台。
- ・運転手は15名確保しており、約半数は大型二種免許を保有している。
- ・運転手の高齢化が進行しており、事業継続に支障が出るのが想定。
- ・運転手の確保に向け、二種免許取得料金の補助などがあると良い。

◎ハイヤーの利用状況

- ・本町、鳴川、緑町、藤城、上藤城に居住する町民の利用が多く、概ね利用者は固定化。
- ・町内移動もしくは函館市までの移動が大半であり、通院・買い物目的が主である。
- ・9～11時がピークで、それぞれ時間は決まっており、待たせることもある。
- ・坂が多い地域特性上、冬期になると利用が増加している。また、年金支給日の利用も多くみられる。
- ・年間を通じて、特に冬場の利用が多い状況となっている。

◎運行事業への連携・協力可能性などについて

- ・可能な限り、協力していきたいと考えており、現在は大中山小学校の一部生徒の送迎事業を実施。
- ・函館市や北斗市で実施している高齢者や障害者へのタクシー・ハイヤー料金の割引券があると、町民もより利用しやすくなると考えている。
- ・当社では独自に70歳以上の高齢者や65歳以上の免許返納者に対しての割引（1割引き）を実施している。
- ・過去に七夕等のイベントに合わせて割引券を配布したことがあるが、非常に好評であり、割引券のような取り組みは有効であると認識している。

■大沼交通（乗合バス事業者）

◎運転手や車両も含めた運営状況

- ・ハイデッカーが26台、運転手は18名確保しているが、平均60歳前後であり、ドライバーの高齢化が進んでいる。
- ・自社で運営している飲食店の送迎車両としてハイエースワゴンも保有。
- ・乗合事業や町からの委託事業のほか、運転手の空き状況や日中稼働しないハイエースワゴンを活用し、沼っ子お出かけ号を自主的に運行している。
- ・沼っ子お出かけ号の予約受付についても、全社員が対応できるようにしているため、予約要員の人員費が直接発生していない。

◎沼っ子お出かけ号の利用状況

- ・東大沼地区からの利用が多く、年齢では60～80歳代が多い。
- ・行き先は目安はあるものの、町内施設であれば柔軟に対応している。
- ・非常に好評であり、事前に1週間以上先の予約まで入っていることがある。

◎運行事業への連携・協力可能性などについて

- ・観光需要の回復状況にもよるが、可能な限り協力し、全社的に地域貢献に取り組みたい。
- ・今回のようなヒアリングの機会だけではなく、免許返納者が移動に困っている実態など地域の状況を定期的に把握する、事業者と情報交換する機会も必要だと思う。
- ・沼っ子お出かけ号は非常に好評で、現状の週2運行からの拡大の要望もあり、外出促進に繋がっているほか、地域コミュニティの維持の目的もあるため、継続して実施していきたい。
- ・今は複数の事業をやっているので、空き時間の人を有効活用してなんとかできている。
- ・大沼～函館空港シャトルバスについても、運行していない時間帯に町民の生活の足として、移動支援ができると良いと考えている。

■からまつハイヤー（ハイヤー事業者）

◎運転手や車両も含めた運営状況

- ・普通車が4台、ジャンボタクシーが1台。
- ・運転手は5名確保しているが、現在の倍程度の人員がいることが望ましい。
- ・運転手の高齢化も進行しており、スクールバス運行などを町から委託事業として請け負っているが、運転手数も含め今後の事業継続に影響があることが想定される。

◎ハイヤーの利用状況

- ・大沼地区内の移動が多く、ほとんどが1メートルもしくは2メートルの移動料金である。
- ・地区内のセブンイレブンや歯医者などが主な行き先である。
- ・観光需要が多いときには、ホテルからの地区内周遊ニーズもある。

◎運行事業への連携・協力可能性などについて

- ・可能な限り、協力していきたいと考えているが、運転手やハイヤー事業者が持続可能な事業として成立するような体制が望ましい。
- ・また、新しく運行事業などを実施する場合には、単年度で終了するのではなく、利用状況を踏まえ改善などを行いながら、できるだけ長く継続するようにしてほしい。
- ・緊急時に利用できることも、タクシー・ハイヤー事業の利点であるため、事業者や運転手にも恩恵のある支援事業があるとドライバーも確保しやすくなり、事業継続に繋がると思う。

■桔梗ハイヤー（ハイヤー事業者）

◎運転手や車両も含めた運営状況

- ・普通車が26台、大型車が1台、福祉用車両が2台、ジャンボタクシーが1台。
- ・運転手は34名確保しているが、運転手の高齢化が進行しており、60～70代の運転手が多い状況である。

◎ハイヤーの利用状況

- ・七飯町内での移動、函館市往復が主な利用状況であり、町内では自宅から1メートルもしくは2メートルの距離内での買い物、函館市には通院の利用が多い傾向である。
- ・また、自宅からバス停や駅への移動もみられ、全体的に冬には利用が増えている傾向である。
- ・利用者は概ね固定化されてきており、60～80代が多いため、登録申請を行った65歳以上の高齢者は運賃1割引の対応を独自で行っている。
- ・運賃支払い時に利用できる10枚綴りの500円クーポン券（購入金額4,500円）も発行しており、非常に好評である。

◎運行事業への連携・協力可能性などについて

- ・全面的な協力は難しいが、可能な限り協力していきたい。
- ・高齢者の方が利用しやすい運賃助成券のようなものがあると良い。
- ・他の自治体のコミュニティバスとタクシー助成券の利用実態を比較すると、後者のほうが効果的であると認識している。

■函館バス（路線バス事業者）

◎運転手や車両も含めた運営状況

- ・運転手は200名以上、車両が約200台。

◎七飯町に係る路線バスの利用状況

- ・七飯町に係る路線バスシステムの乗車人員は、2020年度実績で約711,000人となっており、朝や夕方の通学利用が多い状況である。
- ・全18系統のうち、9系統は国、道及び市町村からの運行経費に対する補助金を受けて、運行している系統である。

◎七飯町における運行事業への連携・協力可能性などについて

- ・需要又は要望に応じた様々な運行形態について検討したいと考えている。
- ・要望として、運行本数や運行時間帯の変更などがある。
- ・実際に今年度は、33系統函館バスセンター行き朝1本目の混雑に対して要望があり、2台運行する対応を行った。
- ・新型コロナウイルス感染症によって、路線バス事業は大きな打撃を受けている状況にあり、安定的な運行事業の継続に向け、雇用・車両更新等、安全に運行するための相応のコストがかかってしまうことから、引き続き路線への補助を含めた、自治体からの継続した支援を賜りたいと考えている。